

4～よくできている 3～できている 2～あまりできていない 1～できていない ○成果のあったこと ●課題、改善が必要なこと

重点 目標	ゴールイメージ	課題と具体的な手立て	自己評価の手立て (時期、評価基準・数値目標)	学校の自己評価コメント (結果の考察・分析)		自己評価(評定)		学校関係者 総合評価	学校関係者のコメント	次年度への改善策 (自己評価より)	
				指標別	総合	指標別	総合				
学 力 の 向 上 ・ 授 業 づ く り  (学が意欲と学が喜びのあふれる学校づくり)	① 児童が問いをもって学習し「わかる」「できる」「つかう」ことを実感する授業を展開する。	○ 学習習慣の定着 ・ 授業中の基本的な学習態度の共通理解(「立腰」の徹底) ・ 月目標達成のための具体的な取組	○ 教師の評価 「月別目標」 (4月 達成85%)	・ 4月当初「学習のきまり」を配付し指導を行い、月目標として学習習慣強化に取り組んだ。教師評価は75%であった。再度学習態度の見直しを図り次年度につなげる必要がある。		2	2.8	3.1	<input type="checkbox"/> 児童の興味がわくような授業の進め方、児童一人一人に応じた指導など工夫されている。 <input type="checkbox"/> 系統立てた興味のわく学習ができると達成度が更に向上すると感じる。併せて、チェックポイントの精度向上にも期待する。 <input type="checkbox"/> 新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う臨時休校措置で、学校生活の重要性やありがたさを再認識された家庭が多い。	<input type="checkbox"/> 本年度の反省をもとに、次年度4月のスタートから共通実践のもと強化できるようにしたい。 <input type="checkbox"/> CRT検査結果を全職員で分析・考察し、年度内に補充指導を行う。※新型コロナウイルス感染拡大措置のため年度内臨時休校となった。次年度の補充内容として次学年につなげたい。 <input type="checkbox"/> 次年度もチェックポイントを意識した授業に全職員で取り組む。また児童のタブレット活用能力向上にも努める。	
		○ 基礎・基本の定着 ・ 計画的なスキルアップタイムの実施(校長・専科教諭の協力) ・ 児童の実態に応じた効果的な少人数指導の充実(町支援員との連携)	○ CRT検査 (3段階出現率評価2以上 90%以上)	・ 学年に応じたスキルアップに取り組んでいる。 ・ 町学力向上補助教員の先生方と児童理解に努め、児童に応じた少人数指導を実施している。							3
		○ 学力向上研修 ・ 各種調査等の結果の分析と指導方法の工夫改善 ・ 適切な仕掛けと見届けのある授業 ・ 「めあて」と「まとめ」の一体化 ・ ICT環境を生かした学習指導の工夫	○ 授業評価 (児童・職員)	・ 5月に学力分析し各学年で対策を立て実践しているところである。 ・ 授業改善のチェックポイントを授業評価に生かした。「授業でめあての解決ができた～8割超」で、更に満足感を得られる授業改善に努める。またタブレット活用ができる教師が増えてきている。							
	② 該当学年だけではなく長期的な展望(義務教育9ヶ年)に立った指導に努める。	○ 小中一貫教育の充実 ・ 小・中合同研修会の充実 ・ 中学校入学を見据えた学習習慣の定着 ・ 特別支援教育の視点からの一貫教育の確立 ・ サマースクールにおける職員及び生徒の相互派遣	○ 職員へのアンケート (12月 達成80%)	・ 防災教育と地域との連携とのテーマで小中合同研を2回実施した。理解を深める機会となった。 ・ サマースクールについては本年度は各校単独で実施した。次年度の方向性を検討したい。 ・ 中学校入学説明会にて6年児童に授業や部活動参加を実施し、中学進学への意識付けを行った。		2					
		③ 家庭と連携した学習や読書活動の充実に努める。	○ 読書の推進 ・ ファミリー読書・昼の読書・ボランティアや教師による読み聞かせの実施	○ ファミリー読書の集計 (毎月 達成80%) ○ 児童・保護者・職員へのアンケート(学年末の達成80%)	・ ファミリー読書の達成率80%。 ・ 10月の読書月間に合わせてボランティアや教師による読み聞かせを実施した。		3				
			○ 家庭学習の充実 ・ 学習習慣の実態調査の実施・分析、手立ての構想 ・ 保護者への啓発	○ 保護者や児童に家庭学習の実態調査 (6月 達成80%)	・ 家庭学習の習慣化は図られてきている。実態調査結果は参観日で知らせ、家庭での目標を立てて学習に取り組ませているところである。			4			
									<input type="checkbox"/> 知に対する興味を向上させる指導の工夫を期待する。 <input type="checkbox"/> 読書の習慣化を図り、感性や創造性の向上に努めていただきたい。 <input type="checkbox"/> 宿題については一律に同じ内容や量を出すよりも選択肢があり児童の意思で取り組めるなどの工夫ができることを期待する。	<input type="checkbox"/> 次年度は富田小学校が小中連携の担当である。小中一貫のねらいをもって更に連携を深めたい。 <input type="checkbox"/> 家庭学習については、「家庭学習の考え方」について職員で見直し、主体的な学びが実現できるよう保護者とも意識改革をした上で共通実践を図りたい。	

4～よくできている      3～できている      2～あまりできていない      1～できていない      ○成果のあったこと      ●課題、改善が必要なこと

重点目標	ゴールイメージ	課題と具体的な手立て	自己評価の手立て (時期、評価基準・数値目標)	学校の自己評価コメント (結果の考察・分析)	自己評価(評定)		学校関係者 総合評価	学校関係者のコメント	次年度への改善策 (自己評価より)		
					指標別	総合					
児童理解・生徒指導の充実	① 日常生活における積極的な生徒指導の徹底を図る。	○ 先回り指導の徹底 ・ 落ち着いて学習できる環境づくり ・ 機を逃さない指導の徹底	○ 学校のきまりや生活の約束を周知徹底させることで、問題行動を未然に防ぐ。(常時)	・「富田小のよい子」により重点指導項目を徹底させ、安全に生活できるように努めている。	3	2.9	3.2	<input type="checkbox"/> 児童の頑張りの様子が見えなくなる。 <input type="checkbox"/> 指導のマンネリ化にならないように常に意識していただきたい。	<input type="checkbox"/> 重点指導項目について継続して周知徹底するとともに、全校集会や放送等で、「できていることを褒める」称賛の機会を増やし、自己肯定感を高め意欲付けを図りたい。		
		○ 見届け指導の徹底 ・ ろう下歩行やトイレのスリッパ並べなど、意図的計画的な指導、そうじだいすき週間での指導		○ 委員会反省(教育課程評価達成80%)	・ 生徒指導月間では全校集会でプレゼンにより全児童への指導を行っている。					2	
	○ 委員会活動の充実 ・ 委員会からのお知らせやお願い、掲示物の充実及び点検、指導	○ 委員会反省(教育課程評価達成80%)	・ 掲示板を活用し委員会の目標やお知らせ等を行っている。	3							
	○ 体験活動や奉仕活動の取組 ・ 6年生を中心とした朝のボランティア活動の推進 ・ 2～6年による幼保小交流の実施 ・ るびなす支援学校との合同学習	○ 児童へのアンケート(2月末 満足80%) ○ 児童へのアンケート(満足80%)	・ ボランティア活動については6年生が自覚をもって活動できた。5年生も運動会後から自主的に活動できるようになってきた。 ・ インフルエンザ流行によりるびなす支援学校との交流期日の変更が生じた。	3							
③ 組織力を生かし、いじめ・不登校の未然防止に努める。	○ 児童が不登校にならない魅力ある学校・学級づくり ○ 生徒指導上の諸問題への対応 ・ 「育みの会」での情報交換と具体的対策の実践 ・ SSWとの連携 ・ ケース会議の実施 ・ 特別支援教育コーディネーターとの連携 ○ 全児童対象の教育相談	○ 「育みの会」「ケース会議」で共通理解された児童の変容(学年末)	・ 月1回の教育相談から児童の悩みを聞き出し、指導に生かしている。特に初期対応と組織対応に心がけている。 ・ 本年度は積極的にケース会議を開き、全職員で共通理解のもと児童指導にあたることのできるように努めた。	3	<input type="checkbox"/> 児童の悩みに対してのメンタル面での適切な対応を、今後もお願いしたい。	<input type="checkbox"/> 次年度も全職員で積極的な児童理解と児童指導に努める。 <input type="checkbox"/> SSWの業務内容を全職員で共通理解した上で連携を深める。					
							○ 特別な配慮を要する児童への指導及び支援体制の充実 ・ 特別支援教育に関する研修会の実施 ・ 教育支援員の有効な活用	○ 職員へのアンケート(2月末 満足80%)	・ 特別な配慮を要する児童の把握と支援体制の充実を実践している。 ・ 職員研修による共通理解と実践力向上、教育支援員の効果的活用を図っている。	3	
							○ いじめや差別を許さない学校づくり ・ 学校全体で、いじめを絶対に許さない雰囲気づくり ・ いじめ悩み相談の実施 ・ 「いじめに関する保護者アンケート」の実施	○ 相談カードの活用及び教育相談の実施と問題発見後の確実な解決及び経過観察(随時) ○ 職員へのアンケート(研修後 満足 80%)	・ いじめ防止基本方針をもとに、連絡体制の周知徹底を図り、即対応できるように心がけている。	3	
							○ 人権教育の推進 ① 児童の人権意識の高揚 ・ 12月の人権集会の実施 ・ LGBTを視点にした学級活動の展開 ② 職員の人権意識の高揚 ・ 夏季休業中の研修会の実施 ・ 12月の町人権教育研への参加	○ 職員へのアンケート(研修後 満足 80%)	・ 昨年度、LGBTを視点にした学級活動の授業実践を行い、本年度は年間指導計画に位置づけ、取り組んでいるところである。 ・ 12月の人権集会では、委員会児童による本の読み聞かせや標語作成・発表を行い、人権意識の高揚を図ることができた。	3	
④ 特別な配慮を要する児童一人一人の教育的ニーズに応じた支援を行い、いじめや差別のない学校づくりに努める。	○ 特別な配慮を要する児童一人一人の教育的ニーズに応じた支援を行い、いじめや差別のない学校づくりに努める。	○ 特別な配慮を要する児童への指導及び支援体制の充実 ・ 特別支援教育に関する研修会の実施 ・ 教育支援員の有効な活用	○ 職員へのアンケート(2月末 満足80%)	・ 特別な配慮を要する児童の把握と支援体制の充実を実践している。 ・ 職員研修による共通理解と実践力向上、教育支援員の効果的活用を図っている。	3	<input type="checkbox"/> 学校職員の目配りや気配りがあり、ありがたい。 <input type="checkbox"/> 特に配慮を要する課題であるので、児童の将来を見据えた学校の取組に期待する。 <input type="checkbox"/> LGBTと人権問題は切り離せない問題であるので、児童の心に正しく理解できるような指導をお願いしたい。	<input type="checkbox"/> 支援を要する児童が年々増加している。支援体制や指導方法の工夫について全職員で研修し、資質向上に努める。 <input type="checkbox"/> 次年度も教育相談週間を有効に生かし、児童から聞き取った情報等を実態把握シートで取りまとめ、指導に生かしたい。 <input type="checkbox"/> 人権教育の一環として夏休みの作品募集(人権に関する作品)も積極的に呼びかけていきたい。				
								○ いじめや差別を許さない学校づくり ・ 学校全体で、いじめを絶対に許さない雰囲気づくり ・ いじめ悩み相談の実施 ・ 「いじめに関する保護者アンケート」の実施	○ 相談カードの活用及び教育相談の実施と問題発見後の確実な解決及び経過観察(随時) ○ 職員へのアンケート(研修後 満足 80%)	・ いじめ防止基本方針をもとに、連絡体制の周知徹底を図り、即対応できるように心がけている。	3
								○ 特別な配慮を要する児童への指導及び支援体制の充実 ・ 特別支援教育に関する研修会の実施 ・ 教育支援員の有効な活用	○ 職員へのアンケート(2月末 満足80%)	・ 特別な配慮を要する児童の把握と支援体制の充実を実践している。 ・ 職員研修による共通理解と実践力向上、教育支援員の効果的活用を図っている。	3
								○ いじめや差別を許さない学校づくり ・ 学校全体で、いじめを絶対に許さない雰囲気づくり ・ いじめ悩み相談の実施 ・ 「いじめに関する保護者アンケート」の実施	○ 相談カードの活用及び教育相談の実施と問題発見後の確実な解決及び経過観察(随時) ○ 職員へのアンケート(研修後 満足 80%)	・ いじめ防止基本方針をもとに、連絡体制の周知徹底を図り、即対応できるように心がけている。	3

（明るく活気あふれる学校づくり）

4～よくできている      3～できている      2～あまりできていない      1～できていない      ○成果のあったこと      ●課題、改善が必要なこと

重点目標	ゴールイメージ	課題と具体的な手立て	自己評価の手立て (時期、評価基準・数値目標)	学校の自己評価コメント (結果の考察・分析)	自己評価(評定)		学校関係者 総合評価	学校関係者のコメント	次年度への改善策 (自己評価より)
					指標別	総合			
健康 安全 教育 の 充 実  (命の大切さを基盤にした学校づくり)	① 登下校時の安全確保のための指導の充実と帰宅後の自転車乗り等の安全確保のための指導の徹底を図る。	○ 交通安全指導の充実 ・ 「交通安全教室」の実施 ・ PTAや地域ボランティアによる立番指導 ・ 登校班長会と地区集会・集団登下校	○ 各集会を通しての児童の意識の変容確認(随時) ○ 登下校OKカード(地区集会毎 満足80%)	・ 月1回登校班長会・集団下校を実施し、安全指導に心がけている。	3			□ 地域の警察関係と共同で安全指導を行うことも児童の安全意識向上につながると思える。 □ 登下校の見守りは地区ごとにとってもよく活動していただいている。	□ 登校班での登校以外の児童の登校状況や保護者送迎状況についても適宜把握し、改善すべき点は呼びかけた。 □ 次年度もコンビニ等周辺商店との定期的な情報交換に努める。 □ 青色パトロールカーの積極的活用を図りたい。
		○ 家庭・地域との連携による安全指導 ・ 定期的な巡回指導の実施(PTA活動との連携による校区内巡回指導、夏祭りにおける夜間巡回指導の実施後) ・ 青色パトロールカーでの巡回	○ 学校・家庭・地域・関係機関で対応し、情報を共有する。(随時)	・ 夏祭りの巡回指導を実施し、職員参加も呼びかけた。 ・ 夏季休業中に通学路安全点検を実施し、危険箇所については町通学路検討会につなげた。					
	② 体力向上を図るために体育の日常化等体育指導の工夫充実に努める。	○ 体育指導の工夫・充実 ・ 体育実技に関する指導資料の配付等指導の充実 ・ 職員向けへ体育実技研修の実施 ・ 体育用具の保管・整備 ○ 体力向上のための取組 ・ 体力向上プランの構想と確実な展開 ・ 授業の導入時のラジオ体操や主運動につながる準備運動の実施 ・ 全校一斉での持久走、長縄跳びへの取組 ・ 体力向上をねらいとしたサーキットの取組	○ 教師の自己評価 ○ 昨年度と今年度の体力テストの結果の変容	・ 本年度は「体育だより」を発行し体力向上等への意識啓発を行っている。また体力テスト前には体力テストハンドブックを作成し、向上させたい体力への具体的な取組を行った。 ・ 体力テスト結果では「柔軟性」「ソフトボール投げ」に向上が見られた。「持久力」に課題が見られたので、持久力を高める運動の充実に全校一斉で取り組むたい。	3  2	2.7	3.1	□ 持久力に関しては体力的なことよりもメンタル的な要素が大きいのではないかと感じる。モチベーションの持たせ方で結果が大きく変わることもあるので、その工夫をお願いしたい。 □ 休み時間等も活用し、体力向上の取組を行うとよい。	□ 本年度の体力テスト結果をもとに、向上を図るための具体的な日常指導を示し、全職員で意識して計画的な実践に努めたい。 □ 体育備品の計画的な購入を行う。
③ 心身ともに健やかな成長をめざした「食育」を中心とする保健指導の充実と家庭との連携強化を図る。	○ 保健指導の充実 ・ 「ハンカチ・ティッシュ・つめ・前髪」の衛生習慣の定着促進 ・ 姿勢指導の徹底:「立腰」の意識付け ・ ブラッシング指導の充実と歯科受診率の向上	○ さわやかチェックの実施児童の自己評価(児童の意識変容確認) ○ 歯科受診率(3月:満足80%)	・ 「いい歯の日」に合わせ4年は歯科衛生士によるブラッシング指導を行い、意識啓発を行った。年度末治療率は、『歯科疾患 65.3% う歯 62.4% 歯周病 66.7%』との状況である。	3			□ 引き続き学校の継続的な取組に期待する。 □ 町で行われるクッキング教室等の参加が多く、毎年楽しみな活動となっている。 □ 感染拡大防止の点から更に、衛生面での指導が重要になるので、家庭との連携を深めていただきたい。	□ 歯科治療については6月「歯の衛生週間」や11月「いい歯の日」に合わせて、指導及び治療勧告を行い、年度末治療率80%以上をめざしたい。 □ 学校保健委員会や保健便り、学校行事を通して、メディア依存防止に関わる指導の啓発を積極的に行う。	
	○ 食育の充実 ・ 学校での取組(給食指導の充実、栄養職員と学級担任等による食に関する授業実践) ・ 家庭との連携(望ましい朝食の推進、弁当の日の取組)	○ すくすくクッキング実施(夏休み) ○ 弁当の日(お別れ遠足)	・ 夏季休業中に取り組んだ親子すくすくクッキングの様子を9月参観日の折に掲示し、啓発と意欲付けを行った。 ・ 弁当の日は3学期お別れ遠足で実施の予定。						3
	○ ノーメディアの取組 ・ 学校保健委員会の活用と、参観日で各家庭への周知徹底 ・ 長期休業中のノーメディアチャレンジの各家庭での取組	○ 生活チェックカード(回収率毎回90%)	・ 11月の学校保健委員会でメディアをテーマに講話を行い、12月参観日で各家庭へ周知の予定。 ・ 長期休業中に生活チェックカードを配付し、規則正しい生活への意識化を図っている。	3					

4～よくできている      3～できている      2～あまりできていない      1～できていない      ○成果のあったこと      ●課題、改善が必要なこと

重点目標	ゴールイメージ	課題と具体的な手立て	自己評価の手立て (時期、評価基準・数値目標)	学校の自己評価コメント (結果の考察・分析)	自己評価(評定)		学校関係者 総合評価	学校関係者のコメント	次年度への改善策 (自己評価より)	
					指標別	総合				
信頼される学校づくり・連携 (学校評価制度の効果的運用と家庭地域との連携強化)	① 地域に貢献し、地域から感謝されるような学校づくりに努める。	○ 地域行事への参加 ・ 地域行事への参加依頼への積極的協力と呼びかけ ○ 積極的な情報発信 ・ 学級・学年通信、学校通信の定期的な発行 ・ ホームページの内容の充実と定期的な更新 ・ メール配信システムの構築と適切な運用	○ 教育課程評価 (12月実施 満足80%) ○ 教職員へのアンケート (2月 満足 80%)	・ 学習の一環としてこゆ朝市や夕市等への児童協力を行い、学校・地域双方向での関わりが見られる。 ・ ホームページに関しては修学旅行や宿泊学習中の様子をタイムリーに更新し保護者への情報発信に努めた。	3	3	3.3	3.4	<input type="checkbox"/> 地域行事への参加も多く、良好であると評価できる。 <input type="checkbox"/> 地域行事の参加等事前に評価委員に案内するなど今以上に活動状況が分かるようにするとよい。 <input type="checkbox"/> 参観日は、児童が楽しく元気に学習できる内容を取り入れていただきたい。 <input type="checkbox"/> こゆ財団や地域とのつながり、社会貢献への関心が、中学校にもつながっていくとよい。 <input type="checkbox"/> 評価が難しいが、評価委員として実際に感じたことを、客観的に評価できるよう努力したいと考える。 <input type="checkbox"/> 現実の災害は想定外が発生しやすいので、様々なパターン計画が必要である。	<input type="checkbox"/> 新学習指導要領における「開かれた教育課程」を具現化する上で、今後も地域に根ざした教育活動を行いたい。 <input type="checkbox"/> 次年度も安心メール全世界加入をめざす。 <input type="checkbox"/> 参観日の実施回数の見直しや参観内容の計画的実施に努めたい。 <input type="checkbox"/> 新学習指導要領に準じた総合的な学習の時間の年間計画を作成する。 <input type="checkbox"/> 次年度も本年度と同様に小中一貫した教育実践を評価できるよう計画的に実施したい。 ※実施回数4回 <input type="checkbox"/> 校内における防災体制を充実させ、職員が素早く対応できるように日頃からの意識付けを図りたい。
	② 地域人材の授業等への積極的参加の依頼と、いつでも誰でも学校へお出でいただける環境づくりに取り組む。	○ 参観日や学校行事の充実 ・ 1か月前の参観日の案内とホームページへの掲載 ・ 魅力ある授業参観や学級懇談づくりのための実践 ○ 地域人材や外部講師の積極的活用 ・ 学校支援ボランティアの募集と授業や校外学習等での積極的な活用 ・ 総合的な学習の時間における外部講師の積極的な活用 ・ 土曜授業における外部講師の積極的活用	○ 保護者へのアンケート (12月実施 満足80%) ○ 教育課程評価 (12月実施 満足80%)	・ 参観授業では各学年・学級とも工夫された授業に取り組んだ。懇談内容もその時期に合わせた計画で実施しているところである。 ・ 家庭科でのミシン指導や総合的な学習の時間でのJA、こゆ財団との協力等計画的に実施している。また5・6年総合的な学習の時間や6月の土曜授業では、学年の発達段階に応じた学習を行い、多業種の方々や外部講師の協力もいただいた。	3	4				
	③ 学校評価制度の効果的な活用を図る。	○ 効果的な学校関係者評価委員会の開催 ・ 評価委員の授業参観や学校行事への参加の案内促進 ・ 客観的データに基づいた自己評価の実施とそれに対する評価委員からの評価 ・ 評価委員からの評価の職員への周知と具体的改善策の構築と実施(PDCAサイクル)	○ 各会での評価委員からの評価及び意見	・ 年間4回の本会でのご意見が学校教育に反映できるよう職員一丸となって取り組んでいるところである。	3					
	④ 地域とともに命の大切さを第一に考える学校づくりに努める。(特に地震→津波を想定)	○ 命の大切さを考えた学校づくり ・ 避難訓練や集団登下校の実施 ・ 保護者引き渡し避難訓練の実施 ・ 「各避難訓練」の実施 ・ 地震・津波に対する防災教育の充実	○ 大地震や津波災害発生時における登下校時の避難場所の確認 ○ 校区内危険箇所マップの周知徹底	・ 6月に保護者引き渡しの避難訓練を実施した。学校と家庭が連携した防災体制を見直すよい機会となった。 ・ 地震・津波に対する防災訓練については、小中合同で行い、小中間の連携を図った。	4					